

びんご史探訪 ―福山の歴史を学ぶ―

備陽史探訪の会会長 田口義之

(一) 福山の歴史

1、古代・中世の福山

○遺跡の宝庫福山

・縄文時代の貝塚（大門町の大門貝塚・水呑町の洗谷貝塚・柳津町の馬取貝塚）

○七世紀になると突然立派になる福山の古墳 ―古墳時代―

・服部大池周辺の大古墳群と三基の飛鳥時代の古墳

○歴史は芦田の流れと共に ―時代が降ると共に下流に移った備後の中心―

・古代の中心は備後国府の置かれた府中、戦国時代には神辺に中心が移り、さらに江戸時代になって芦田川河口に

○福山のルーツ「草戸千軒」

・草戸千軒、神島市、城下神島上・中・下市の関係

2、福山城と城下町「福山」の誕生

○「足利氏頼に起り、頼に亡ぶ」の意味

・瀬戸内海の扇の要「頼」、歴代の為政者がその掌握に執心

○水野勝成の使命―元和五年八月、勝成備後七郡・備中二郡都合十万石を拝領―

・「東照神君の外戚」の重みと備後南部の重要性

○「西国の鎮衛」福山城―五層五階の大天守と七基あった三階櫓―

・国持大名の居城に匹敵した福山城の威容、完成された近世城郭

○近世城下町の典型「福山」

○福山の基礎を築いた水野氏の治世―干拓と治水―

・福山市街地のほとんどは水野時代の干拓地

（沖野上・多治米・川口・蔵王・南蔵王・春日町吉田・引野・松永）

○水野氏から松平、阿部氏へ

○幕末の名宰相阿部正弘

・正弘の行なった幕政改革と藩政改革

3、明王院の謎に迫る

○国宝本堂・五重塔―常福寺の秘められた歴史―

・「律宗」寺院だった常福寺

・本堂は最古の「折衷様式」、五重塔は日本中で五番目の古さ

○明王院と常福寺の合併―承応事件の衝撃―

・福山藩を震撼させた「承応事件」（浪人による幕府転覆の陰謀）

・承応事件への対応が常福寺と明王院の合併となった―鍵を握る徳川家光の位牌―

4、戊辰戦争と福山

○最後まで幕府側に立った福山藩

・阿部正弘亡き後、相次いだ藩主の早世

○運命の明治元年（一八六八）一月九日―長州軍の福山入城を許した福山藩―

・福山城は幕府権力の象徴、虎視眈々と福山を狙っていた薩長両藩

○福山県から深津県、小田県、更には岡山県から広島県への編入

・県名と県庁所在地の名前で分かる幕末の動向、薩長に冷遇された福山藩

5、福山市誕生の秘話

○「水道」が生んだ「福山市」―水道市長阿武信一の奮闘―

(三) びんぐ史探訪

1、古墳ロード

○全国的に有名な「福山古墳ロード」

・服部大池を基点にA・B・Cの三コースで古墳を訪ねる

2、石造物と地域の歴史

○中世石造物に見る備後の特色

・花崗岩製の寶篋印塔（赤坂町・金江町・芦田町）

・結晶質石灰岩製の石塔（山野町）

・天霧石製の一石五輪塔（大門町・瀬戸町）

3、山城と戦国武士

○各地に残る山城跡は生きた歴史の教材

・合戦物語の残る山城（大場山城跡、神辺城跡、手城島城跡、坪生要害）

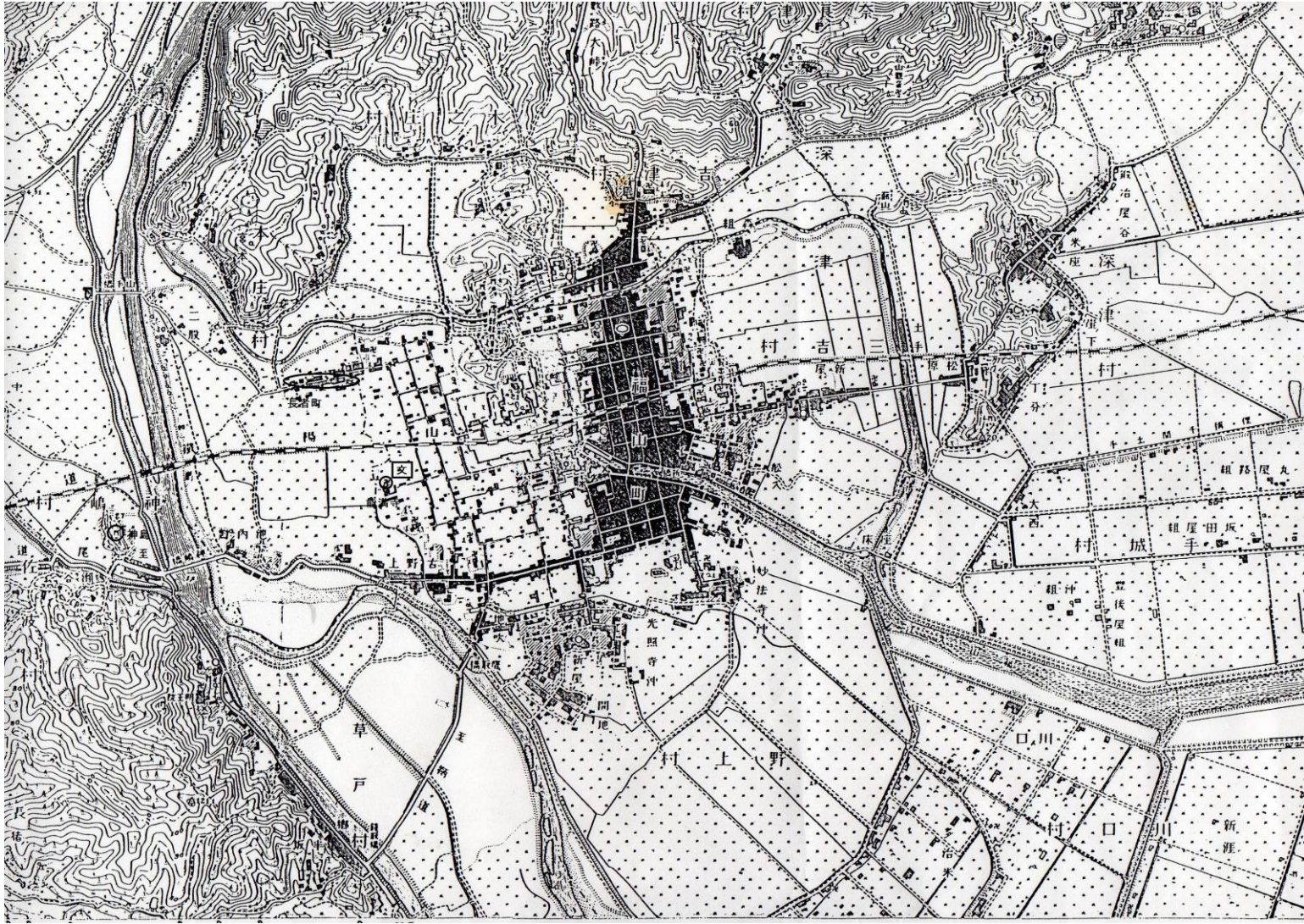
・時代を象徴する山城跡（要害山城跡・銀山城跡・相方城跡）

(四) これからの福山

1、州都「福山」へ向けて

2、「芸備」から「備芸」へ―取り戻そう備後の自信―

○毛利元就の時代までは「備芸」と呼ばれていた広島県



明治三〇年ころの福山